

Circular Hut Park

Concept

ウェルビーイング(心身の健康)とサーキュラー(循環)をテーマとした未来志向の都市公園

Abstract

富山県の人口は現在100万人を切り今後も減少傾向であり、これは富山県だけでなく多くの地方都市が抱える現象であると言えます。

県庁周辺エリアのあり方を考えることは、これらの現象と向き合い、地域の特徴に即したまちづくりが不可欠であり、高密度化や大規模誘致が前提の再開発ではなく、**低密度でありながら豊かで持続可能な都市空間**がふさわしいと考えます。

そこで私たちは富山県が掲げる **Wellbeing(心身の健康)** に加え、持続可能性を意味する **Circular(循環)** をテーマとした、**行政・民間の垣根を超えた未来志向の都市公園**を提案したいと考えます。

この都市公園は地方都市のこれからの考える**実験空間**であり、完成されたハードではなく、**チャレンジの仕組みづくり**です。

この都市公園をきっかけに多くの県内外の人の**関わり代**が生まれることを期待しています。

People Circular(人の循環)

この公園をきっかけに、人々がまちを循環する。また世代を超えて多くの人々がこの場所に関わる。

Economic Circular(経済の循環)

地域の経済を循環させる。
また、維持管理についても公的資金に頼らずに持続可能な仕組みとします。



Question Circular(問いの循環)

活動の中で新たな問いが生まれ、そこから新たな活動やプレイヤーが生まれます。問いの解決に向けて産学官の垣根を超えた交流が生まれます。

Place Circular(場の循環)

地元事業者や個人でも利用できる気軽さや、コスト感、使い方を固定しないフレキシブルなハード整備により、人々が有効に活用できる場をつくります。

Environmental Circular(環境の循環)

環境負荷が小さく持続可能で、森林資源の循環利用にも配慮した施設とします。

1. アクティビティオーバル

敷地内を回遊する空中歩廊。

ランニング / ウォーキングが楽しむことができます。ストックホルムのロータリーにも採用されている「スーパー楕円」をモチーフとし、敷地を有効に活用しながら、なめらかな動線を実現しています。スーパー楕円の安定した構造形態は耐震性の強化にも寄与します。

アクティビティオーバルは空中歩廊であり、その下部は雨天でも歩行できる空間となります。また床面には歩行発電装置を設置し、利用者がこの施設の維持に関わる仕組みをつくります。

この公園を起点とし、市電通り・41号線と接続し、富山市内を回遊するランニング / ウォーキングコースを生み出します。自然や歴史、まちなみを感じながらのランニング / ウォーキングは、このまちの暮らしのシンボリックな体験となります。



2. 親水広場

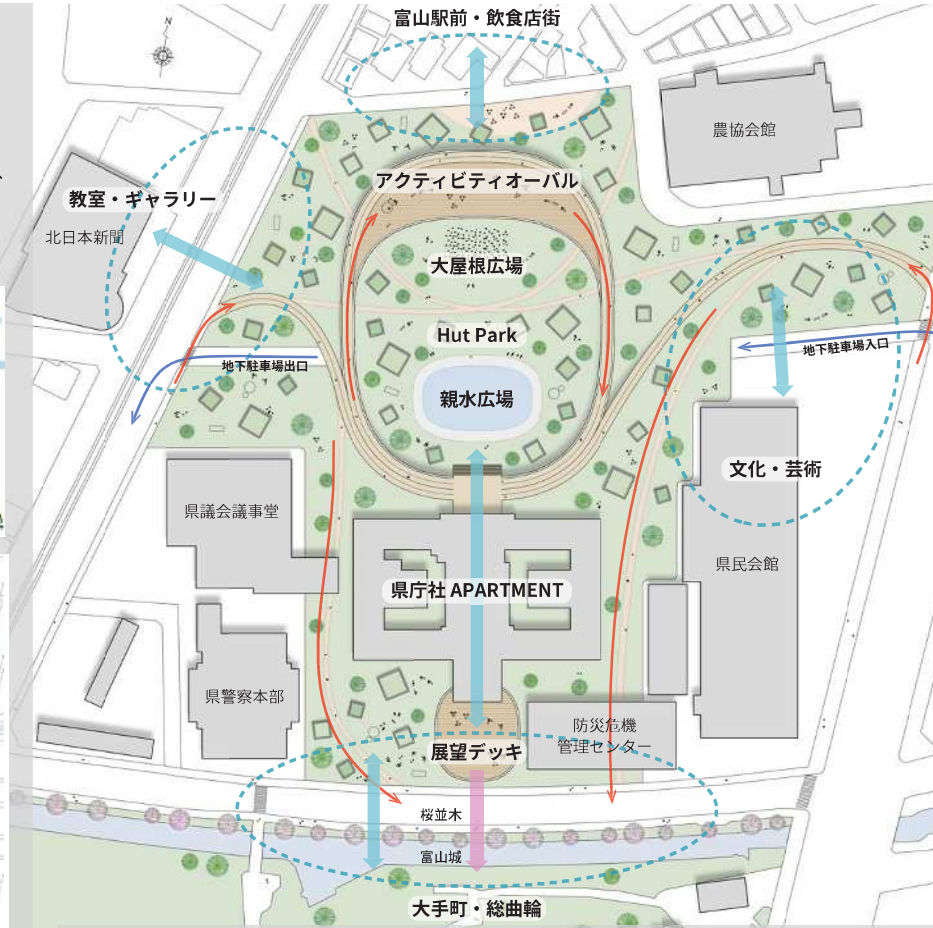
かつてこの場所にあった噴水へのオマージュとして親水広場を設けます。子供達が遊べる場所とすること、防災井戸なども設置し、災害時のインフラとしても機能するよう配慮しています。



3. 県庁社 APARTMENT

「暮らす」をテーマとした実験施設。レトロな雰囲気を生かした住居施設へとリノベーション。

滞在型ホテルや・賃貸住宅・共同所有別荘など、様々な貸し方を実験し、利用者が常に循環し続ける住居施設を目指します。1階には共用の浴室やサウナなども設置します。

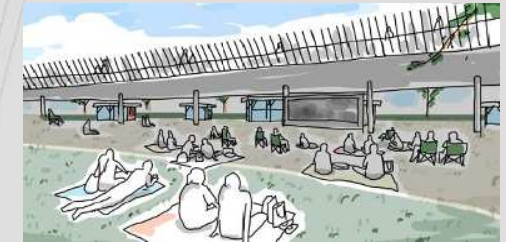


4. Hut Park

地元のお店や個人でも活用できる小さな建物 (Hut) が公園と一体的に点在します。周囲から自由にアクセスできるポーラス (多孔質) な広場空間であり、複数の小さな居場所を生み出し、まちと公園・人を繋げます。また災害時は仮設住宅として機能するよう、非常電源・給排水設備などのインフラを整備します。

5. 大屋根広場

天候を気にせず、イベントが実施できる屋根付きの広場スペース。災害時には避難施設としても機能します。



6. 展望デッキ

県庁周辺を芝生広場とし松川沿いまで空間を連続させ、川沿いの景観を楽しむ広場空間を設けます。松川・城址公園への回遊性を高めます。



7. 地下駐車場

景観に配慮しながら、このエリアの駐車場不足を軽減するため、地下には駐車場を設置します。ここには防災備蓄倉庫も設置します。駐車場自体を防災シェルターとして利用することも可能です。

Hut Park の建築について

Hut Park は木造の小さな建築の集合によって構成されます。

ローコスト化・維持管理費低減による家賃上昇の抑制・建設時の環境負荷低減・森林資源の循環利用により CO2 の固定化に貢献・将来的な変化にも柔軟に対応可能などのメリットがあり、世界的にも木造建築のニーズが高まっています。日本には独自の木造建築の文化があり、それらを生かした建築ができればと考えます。



Diagram

小規模な店舗や機能が緩やかにつながりながら連続することで、様々な機能が組み合わせられ、公園内に素敵な居場所が生まれます。

賃貸やスペースシェアなどを組み合わせ、平日・休日を使い方を変えるなど、柔軟な施設の使い方を実践する、実験の場として機能します。

【主な使用例】

飲食店、物販店、シェア本棚、学習室、貸し教室、休憩所、健康測定室、行政相談窓口、写真スタジオ、食品販売店、ギャラリー 大学の研究室、コワーキングスペース、シェアオフィスなど。

